

## 第24回 日本アレルギー学会春季臨床大会

シンポジウム13 地域で見守るアレルギー疾患

# 早期のステロイドで症状・QOLが改善 乳児アトピー性皮膚炎の長期管理で

かめさきこども・アレルギークリニックの亀崎佐織氏はシンポジウム「地域で見守るアレルギー疾患」で、「開業医から見たアレルギー疾患—子どものアレルギーへの早期介入と長期管理について—」をテーマに講演。同氏は「乳児アトピー性皮膚炎に早期からステロイド外用で介入することにより、症状だけでなく親と子のQOLも改善した」と述べた。

亀崎氏は、アレルギー疾患に対する開業医の強みとして①早期介入できる②悪化や合併症がある場合に早期対応できる③子どもの経過観察と地域でのサポートが可能④家族関係や家庭状況を把握しやすいなどを挙げた。

特に、乳児アトピー性皮膚炎(AD)では、皮膚状態(悪化が早い)、食物アレルギーとの関連(皮膚感作の可能性)、母子関係の確立(育児ストレスや親の自責感)などの面から、早期介入が重要との考えを示した。

こうした背景を受けて同氏は、乳児期早期のADに、ステロイド外用を積極的に取り入れた塗り方の指導を行い、皮膚状態やQOLがどの程度改善するかを調査した。



亀崎氏

対象となったのは、同院を初診で来院した生後3~6カ月の乳児で、重症ADと診断した21例。初診時の皮膚重症度をSCORADで、QOLは新たに作成したライフスコアで点数を付けた。

皮膚状態を①重症湿疹、湿潤、苔癬化部位②軽症湿疹③乾燥部位または正常部位—の3段階に分け、重症湿疹にはストロングステロイド外用3日間、軽症湿疹にはマイルドステロイド外用3日間、乾燥部位には保湿剤を継続的に使用するというステップダウン方式を取った。

結果を見ると、初診時のSCORADは $55.3 \pm 11.2$ だったが、2回目の来院時には $14.5 \pm 6.4$ と有意な改善を示した( $p < 0.005$ )。また、初診時の乳児ライフスコア $7.5 \pm 1.2$ が、2回目来院

時には $13 \pm 0.9$ と改善した。2回目受診時では母親から、「よく笑うようになった」「機嫌がよくなった」「熟睡するようになった」「子どもがかわいく思えてきた」などの声が寄せられたという。

亀崎氏は開業医とアレルギー疾患の関わりについて、「早期介入と綿密な治療ができる」とあらためて強調した上で、「地域中核病院や幼稚園、学校などいろいろな場所と連携し、家族と患者を支えるのが役目だ」と述べた。